



建学の精神

桃山学院の「キリスト教精神」

桃山学院の学院章には、「SEQUIMINI ME」（我に従え）という言葉が刻まれています。それはアンデレがイエスに従ったように、「自由と愛の精神」をもって生きることです。

使徒パウロが書いています。

「あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい」(ガラテヤの信徒への手紙 5 章 13 節)

自由には他者への愛と責任が伴います。「自由」とは一人ひとりの人格と主体性を尊重すること、「愛」とは互いに仕え合いながら他者と共に生きることです。この「自由と愛の精神」は、単にキリスト教の立場だけではなく、すべての人間が一致し得る普遍的な理念であり、人類共通の目標です。

人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想を目指してチャレンジし続けていくこと、それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神」であり、「世界の市民」への道なのです。

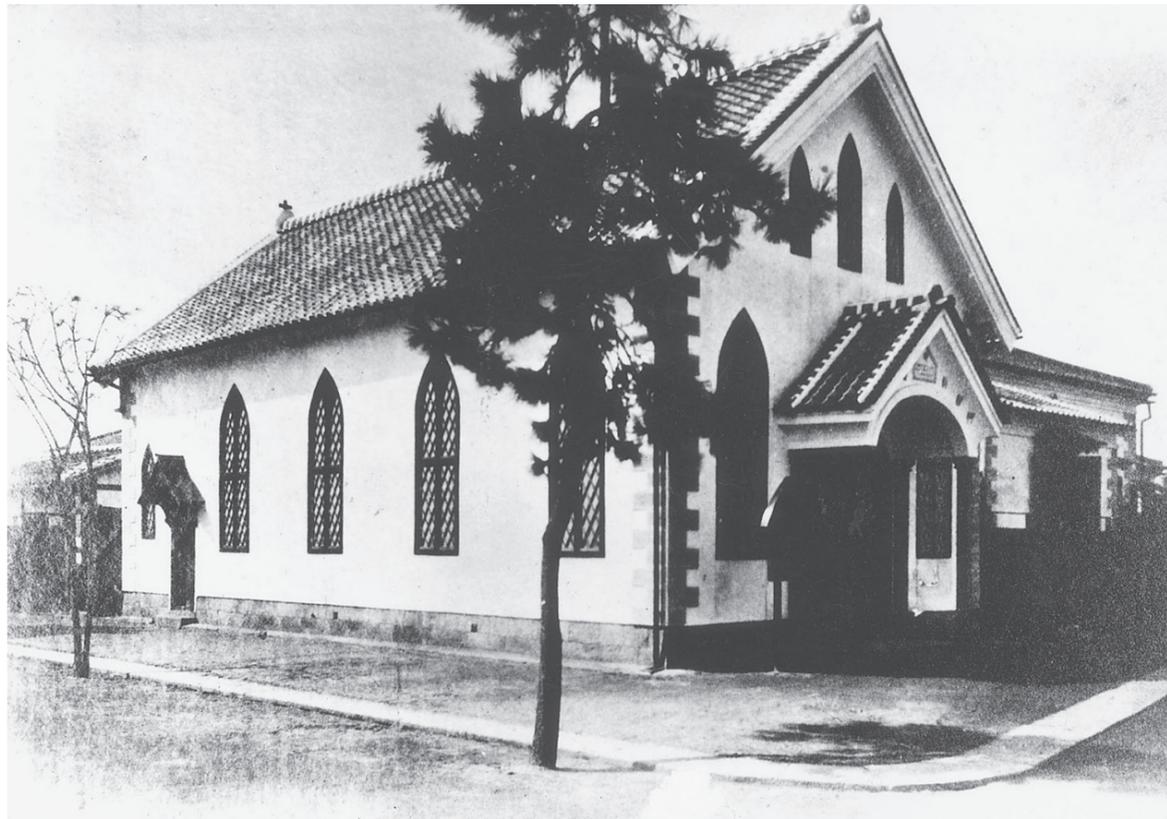


桃山学院 学院章
「アンデレ・クロス」(X字型の十字架)は、イエス・キリストの教えを守り通して殉教した最初の弟子、聖アンデレ (St. Andrew) の偉大な生涯のシンボルです。「SEQUIMINI ME」(ラテン語で我に従えの意)は、アンデレがイエスに出会ったときに呼びかけられた言葉で、アンデレのように最後まで「自由と愛」のキリスト教精神によって生きることを示しています。

学校法人 桃山学院

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1

TEL : 0725-54-3131 FAX : 0725-54-3200



創立

桃山学院のルーツは、明治維新のころに来日したイギリス人宣教師たちの活動に始まります。1869年(明治2)英国聖公会宣教協会(CMS)による最初の日本伝道が長崎で開始されました。桃山学院の創設に深くかかわることになるチャールス・F・ワレンは、その4年後に大阪に到着しました。ワレンは香港に派遣されて貴重な経験を積んだ後、いったん帰国。1873年(明治6)32歳のときに神戸の土を踏みました。ワレンは大阪の〈川口外国人居留地〉(現在の西区川口町)に居を定め、26年間にも及ぶ日本各地における意欲的な伝道活動を開始しました。

日本での伝道活動が順調に進むにつれ、CMS ジャパン・ミッションは教育の重要性にも目を向けるようになりました。そこで1884年(明治17)居留地12番の聖三一教会(Holy Trinity Church)の一室に小さな男子校〈三一小学校〉を、18番に〈三一神学校〉を開設しました。当時の居留地は、世界各国の人々が活躍する国際色豊かな町でした。高い理想と情熱に満ち溢れた個性的な学校が誕生し、それが桃山学院の歴史の第一歩となったのです。

1890年(明治23)三一小学校と三一神学校をつなぐ中等教育機関〈高等英学校〉が設立され、年末、天王寺村中山(現在の天王寺区筆ヶ崎町)の新校舎に移転。当時、その界隈が桃の名所として親しまれていたため、1895年(明治28)〈桃山学院〉と改称。桃山という名前の由来は、ここからきています。

1902年(明治35)大阪で最初の私立中学校として、私立桃山中学校が開校。やがて生徒数が500名を超えたため、1912年(大正元)田辺村(現在の阿倍野区昭和町キャンパス)に移転しました。1927年(昭和2)CMSは桃山学院を日本聖公会に移管することを決定しています。

1945年(昭和20)3月の大阪大空襲で、昭和町キャンパスは焼失してしまいました。しかし、あちこちの小学校の教室を借りてすぐに授業が再開されました。1949年(昭和24)には待望の新校舎が再建され、桃山学院中学校・桃山学院高等学校として新たに出発したのです。1959年(昭和34)にはキリスト教新教日本伝来100年を期して、桃山学院大学が開学されました。

創立の背景と歴史

ワレンは健康上の理由で中国宣教から一時帰国。1873年(明治6)日本がキリスト教を認めたと聞き、すぐに日本宣教を志願しました。神戸に上陸したワレンは、大阪・川口居留地の3番に居を構え、自宅裏に小礼拝堂をつくりました。すぐに会衆が増えたため、1877年(明治10)新会堂を建てて、大阪聖三一教会になりました。

ちなみに1868年(明治元)東京・神戸・新潟とともに開市・開港された大阪では、江戸時代に河村瑞賢によって九条島を開削して開発された川口を外国人居留地と決めました。大阪は経済の中心地で、物資の流通と外交上重要地点であることから、26区画の居留地は神戸の2倍近い価格ですぐに売空。外国人貿易商が競って入居しました。しかし、川口は河口港で水深が浅いため大型船舶が入港できず、貿易商は神戸へと移住していきました。貿易商らに代わって定住したのは、キリスト教各派の宣教師です。1884年(明治17)には、26区画の内、キリスト教関係の施設が20区画を占め、2年後には10区画が増設されたほどです。平安女学院、プール学院、大阪女学院、桃山学院、大阪信愛女学院や聖バルナバ病院などが、ここから始まっています。

ワレンは教会伝道だけではなく、各地に出かけていきました。1881年(明治14)徳島に講義所をつくったのに続き、福山、広島、松江、大分、岐阜、東京と、広範囲の伝道活動を展開しています。その日本語は極めて流暢で、現在の『古今聖歌集』にも、彼の翻訳した数編の美しい聖歌が載せられているほどです。

また、聖職者の養成を重視し、1882年(明治15)神学教育を自宅で開始。2年後には三一神学校として、居留地18番に開学しています。

ワレンは自分の子供たちの教育のために、東洋女子教育協会(FES)に家庭教師を要請。メリー・J・オクスラドが香港から来日し、1877年(明治10)小礼拝堂移転後の居留地4番に女学校をつくりました。2年後にはFESが女学校を継承し、〈永生学校〉として開校。ところが女子生徒の増加によって、男子生徒が受け入れられなくなります。ワレンはCMSと協議して、大阪聖三一教会内に1884年(明治17)男子校として〈三一小学校〉をつくりました。また、〈三一神学校〉との間をつなぐ中等教育機関の必要性から、1890年(明治23)〈高等英学校〉が創立されました。69名が入学したものの、その年の暮れには25名に激減していることから、いささか教育レベルが高過ぎたようです。高等英学校は1895年(明治28)桃山学院と改称。翌年には桃山学校と名称を改め、1897年(明治30)三一小学校と合併しました。

CMS ジャパン・ミッションは日本の学校教育には、日本人の教師が不可欠として、1893年(明治26)日本人として初めて本田増次郎が副校長に起用されました。本田は、学科課程の改革、学期開始時期の変更、校名の改称といった認可中学校に向けての整備を進めました。本田の教え子で高等英学校の卒業生である浅野勇が日本人最初の校長に就任したのは、1907年(明治40)の12月のことです。

ワレンは、1899年(明治32)6月8日、伝道旅行途上の広島県福山で不慮の事故のため惜しくも急逝。58歳の生涯でした。



創立者 Church Missionary Society (CMS)
1799年、海外伝道のためにロンドンに設立。日本には1869年(長崎)、1873年(大阪)に伝道開始。現在は Church Mission Societyとしてオックスフォードに本部を置きます。

